

会議報告

会議名称	「元気な入間」まちづくり推進・協働ガイドライン策定会議 第11回会議
開催日時	平成19年9月18日(火) 午後2時00分～4時40分
開催場所	市民活動センター 3階 活動室1
出席委員	渡部直也・鳥山政之・岡野 亘・北田尚美・斎藤次雄・関谷佳代子・ 清水英弥・清水洋行・瀧澤良生・中澤 岳・原口喜代美・堀夫紗子 以上12名 アドバイザー 犬塚裕雅
欠席委員	岩崎廣司・太田恵子・亀谷容子・宮岡利幸・文字山啓子
傍聴人	無し
事務局	齋藤主幹(司会)・西澤主査
会議の概要 及び 決定事項	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) ガイドラインの骨子作成について</p> <p>(2) ワークショップの開催について</p> <p>(3) その他</p> <p>[主な内容]</p> <p>○渡部会長から、本日の説明。今日は素案として1つの冊子(素案資料)になった1回目。皆さんで検討していただいて良いものを作っていきたい。またワークショップの開催について「まちサポネット元気」木内氏から前回の案に対する修正案の提案が行われる。</p> <p>議事進行方法は第1部会から提案資料の説明。その部会案に対して検討。各部会が終わったら全体で課題は何か、また整合性を持たせるよう検討する形としたい。</p> <p>○各部会の説明</p> <p>◇第1部会……ガイドライン骨子案を元に考察。総論は入間市らしさを表現できるものがないので序論で入間市らしさをいれてみた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこのガイドラインを見ても、経過や思い入れは書いてあっても明確に目的が書かれているものがない。そのため「はじめに」として経過を入れた。(素案資料に沿って説明) ・「目的」—①協働のための環境整備のため作成する。②市民活動団体等が活動する時に協働の手順書として、たらい回しが無いよう窓

口をはっきり明記してはどうか。また、市民活動団体等として別表1のNPO法人・ボランティア・地縁団体や共同組合などを含めた。

第1部会の検討（意見等）

・「目的」について、今までもすでに協働は行われてきているので、「発展するためにこういうものを作った」としてはどうか。

☆「元気な人間まちづくり条例」の「・・・協働のための環境を整備します」をふまえて「環境の整備」（市民活動センター設置など）の枠組みの中の一つとしてガイドライン策定をする。「私たちがやりたい時にはこのページのここを参考にすれば良い」という参考になる本としたい。

・市民団体向けを意識しているようだが、行政を含めないと協働にならないので市民・行政両方に向ける必要がある。市民側の話しか書いてないので行政側の話も入れてほしい。

・「別表1」について、ボランティアとNPO法人が同じ枠に入っているが、ボランティアは市民活動団体の枠ではないか。

・「はじめに」の「市民活動団体（子ども会・・・）」となっているが、括弧内の子ども会等が自発的市民活動団体に含まれている印象をうけてしまう。

☆「市民が自発的に始めたものは真っ先に」と理解しているが、この表現が誤解されてしまうようであれば括弧をはずす。

・市民団体と市民活動団体に違いはあるのか。

・公民館では市民活動団体を略して市民団体と呼んでいた。

・アドバイザーより---地域の市民活動を行う団体が市民活動団体。

自分たちで定義表現してもよい。（例えば「市民活動団体とは・・・」）

★進め方について今日は大括りな話。中の細かい話については何回かこういったたたき台を検討して回していった後に行ってはどうか。

・団体を対象に考えていたが、市民個人を含めるか。（別表1の「市民」）

・当初、まちづくり条例に書いてある人を対象に行うと聞いたが、条例とすり合せないといけないのか。

・今までの協働事例として市民個人と行政の実例は無いと思う。「市民」とすると参画・参加・提案としてのせるか、どうか。

・アドバイザーより---理念上個人も入れているものもあるが、今回のものは原則、団体としていくのが良いと思う。

・3頁2(2)効果とメリットは2, 3部会との絡みが多々ある部分になると思う。

・本会議で皆の了承を受けて肉付けなので、総論について皆の了解の確認をお願いしたい。

・総論は細かい検討が終わっていないため、今日は内容の議論はなし。
◇第2部会----骨子案でまとまっている形態を使っていく。どのような形態が行われていて、どのような事が問題になっているか、そのようなところをみながら課題の整理をしてみた。協働の形態などに変更がでたら見直していく。(素案資料に沿って説明)

第2部会の検討(意見等)

- ・第1部会で4「協働の形態」とあるが「現状と課題」に統一してもよいか。
- ・総論では一般論として出しておいて、各項でそれぞれの内容を入れればよいのではないか。
- ・現状、総論両方に入っているのであれば同じ班が作ったほうが統一感がでるのではないか。
- ・一般論ではこう書かれているが、入間市の現状はこうという書き方。
- ・総論の形態は入間市のガイドラインの形態を示すものではないか。
- ・総論で細かく書くものではない。

☆協働における「委託」がどういうものか、ここでは現状の「委託」がこうだという内容。→協働における「委託」についてはまだふれていない。総論で1行でも2行でも書ければよいのだが。

- ・現状を自分たちで認識しておくことが必要。それを踏まえた上で、総論へ持って行くか、各論へ持って行くか。
- ・アドバイザー----「現状と課題」は面白い資料になっていると思う。こういった事をきちんと出されていることが大事。いつもの事務の流れが協働の原則に照らし合わせた時にどういった課題が出るのか、原則はどの市町村でも浮かび上がってくる。事務の流れを改善していく、また事業の組み立てをどう改良するのか問題視できる。

- ・第1部会の協働の形態にフィードバックしていく。

◇第3部会----「具体的にどうするんだ」という部分になる。前回の骨子の5項目の柱立てになっている。「3協働で実施する事業の検討」で具体的にみじかなものを検討してしまうとそれだけになってしまうのでこの部分は提案しない形にしたい。各論全体も3つ位にまとめたい。「各論」のタイトルを「協働を進めるために」等名称も考えたい。意見をもらって肉付けし、全体の流れを見て作成するので他の部会より半歩遅らせて進行するので承知願いたい。(素案資料に沿って説明)

第3部会の検討(意見等)

- ・第2部会の「入間市のめざす協働」と第3部会の「相互理解と意識改革の方策」は近い内容のものになるのか。

☆第3部会の各論は具体的に何をやるかという部分を提示。

◇全体について

- ・「現状と課題」はもっとあると思うので情報あれば教えてほしい。
- ・何かある方は事務局へメールを。事務局から各該当部会へ報告する。
- ・アドバイザー---言いつばなしでなく、協働はこうだという事例に分析を含めて加えていくと良い。
- ・「現状分析」→「課題の抽出」→「方向性」→「具体的取組」の流れを箇条書きで考えてみたい。事務局で考察し後日報告する。
- ・アドバイザー---「具体的取組」の先に「私たち（市民・市）入間市の目指す協働」ができてくる。

○協働ガイドラインワークショップについて

- ・まちサポネット入間の木内会長より提案説明---企画概要は前回と大筋同じ。ただし寸劇は、はずしてある。骨子案について極力市民意見を出してもらいたい。議論してほしい点は策定会議からお願いしたい。
- ・謝礼の内容は。→ファシリテータ役の方に支払う。
- ・3年前に生涯学習フェスティバルで協働についてワークショップを行っているが、参加者をどうするか考える必要がある。
- ・アドバイザー---策定会議として誰の意見をききたいか。
- ・まず「協働」の意味がわからないのに、いきなりガイドラインの骨子の話は無理がある。
- ・「協働」のPRや理解を深めてもらうやり方を考える。
- ・ペースが間に合わないので期間をのばしてはどうか。
- ・パブリックコメントしても終わるとすぐ「ハイできました」と出てくるのは本当に市民意見を入れて考えているのか疑問。
- ・期間に関しては、この会議の中でみなの話として決めてきたこと。
- ・基本的には予定期間を目指す。12月のできを見て今後を検討したい。

4. 閉会

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成 年 月 日

会 長 _____

